

1 事業概要

事業名	一般国道490号 ^{やまだ} 山田バイパス 道路改築事業
事業場所	萩市大字 ^{やまだ} 山田 地内
事業主体	山口県
事業期間	平成 14 年度 ~ 平成 26 年度 (西暦 2002 年度 ~ 西暦 2014 年度)
総事業費	2,399 百万円
事業目的	一般国道490号は、宇部市を起点とし、美祢市を經由し、萩市へ至る主要幹線道路であり、当該区間は、萩市街地と木間地区を結ぶ、地域住民の生活を支える重要な道路である。 しかしながら、当該区間の現道は、幅員が狭く、線形も悪いことから、車両同士のすれ違いが困難な状況であり、緊急車両やバスの交通にも支障をきたしている。 このため、当該バイパスを整備することにより、安全で円滑な交通を確保することを目的としている。
事業内容	○延長 L=2.3 km ○幅員 2車線：全幅8.0m (車道3.0m×2=6.0m) ○道路区分 第3種第3級

2 事後評価の視点

(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

【費用対効果分析】

区 分	事業採択時・計画変更時・再評価時
評価基準年	平成23年度
事業費	2,326 百万円
工期	H14年度 ~ H24年度
費用対便益比	B/C= 1.4

【要因変化の分析】

- ・ 事業費は、0.7億円の増額となった。
- ・ 工期は、約2年の延伸となった。
- ・ 費用便益比は、再評価時と比較し同程度である。

(2) 事業の効果の発現状況

【事業の効果の発現状況】

- ・ 当該バイパスの整備により、車両同士のすれ違い困難な箇所が解消され、萩市街地へのアクセス性が向上した。

木間地区～萩市役所までの移動時間：38分→36分 ※2分短縮

【事業の効果の発現状況に対する評価】

- ・ 萩市街地へのアクセス性が向上したことで、地域産業の振興及び日常生活の利便性の向上に寄与している。
- ・ 車両同士のすれ違い困難な箇所が解消されたことで、救急・消防活動の迅速化・円滑化が図られている。

(3) 事業実施による環境の変化

【変化の状況】

① 自然環境への影響

- ・ 当該バイパスの整備により、約6haの田畑及び森林が減少した。

② 生活・住環境等への影響

- ・ 自動車交通の多くが旧道から当該バイパスへ転換したことにより、交通の安全性が向上した。

③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）

- ・ なし

(4) 社会経済情勢の変化

【変化の状況】

① 社会経済状況及び事業環境等の変化

- ・ 萩木間畜産団地の家畜飼養頭数が増加するなど、地域産業の活性化につながっている。

② 関連計画・関連事業の状況の変化

- ・ 現在、県では当路線の残る未整備区間において、継続して整備を進めており、当該バイパスとあわせて道路ネットワークを形成することで、萩市街地への更なるアクセス性の向上が期待される。

(5) 今後の事後評価の必要性

なし

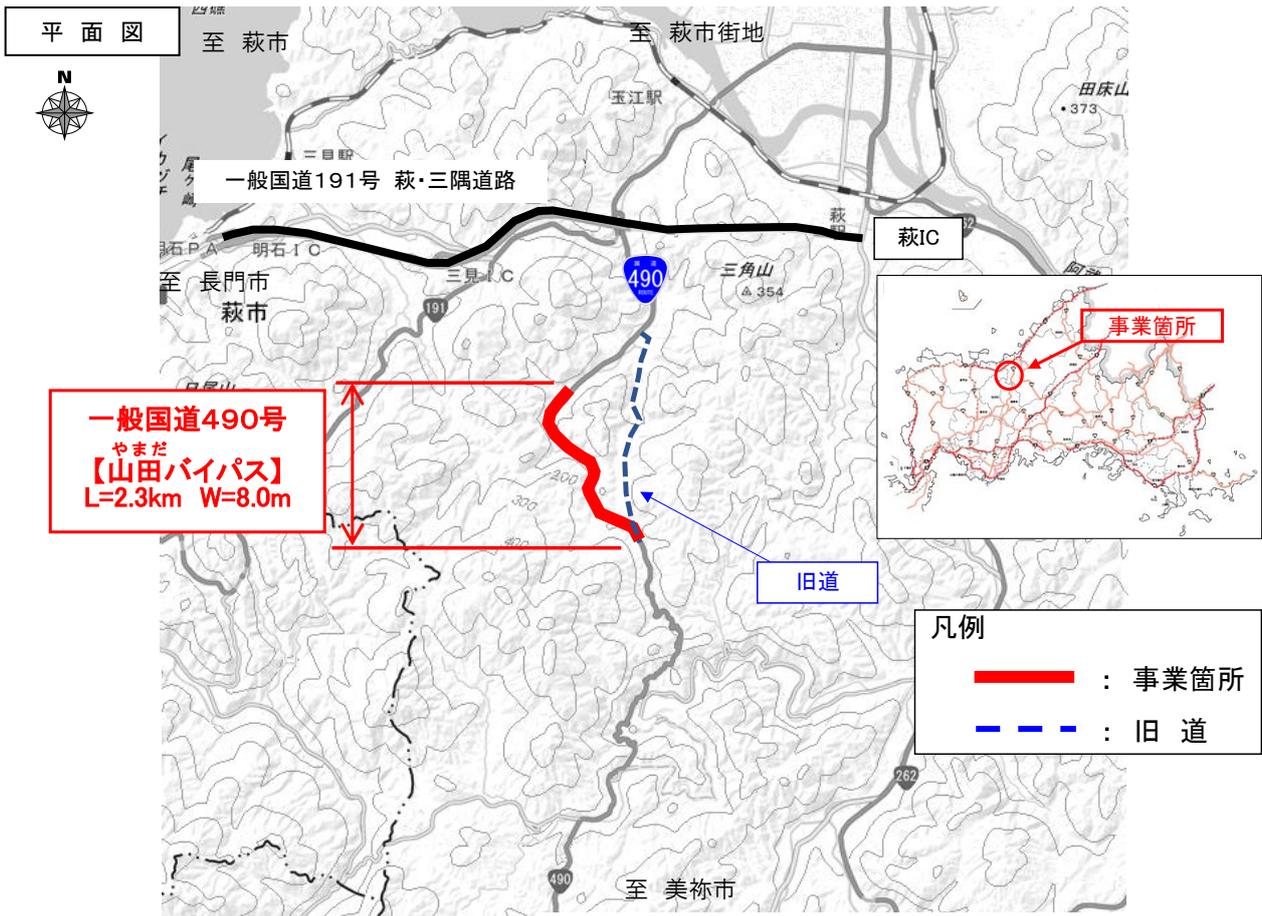
(6) 改善措置の必要性

なし

(7) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

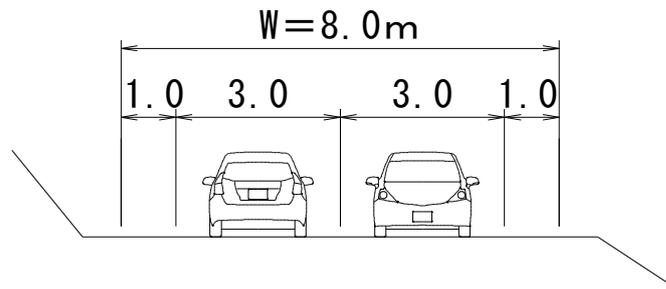
なし

一般国道490号 やまだ バイパス 道路改築事業



※この地図は、国土地理院地図(電子国土Web)の一部を掲載したものである。

標準断面図



写真



整備後の状況